

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

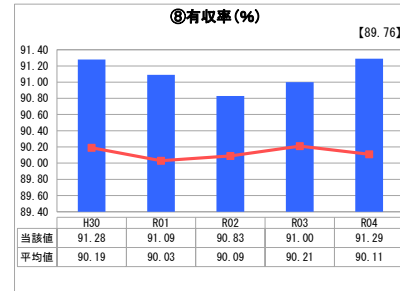
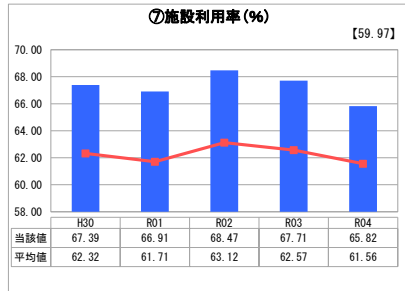
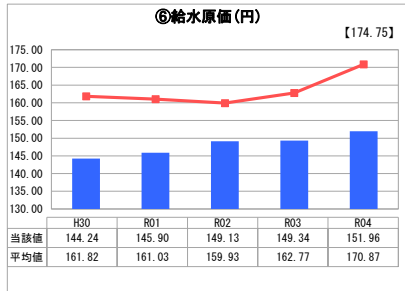
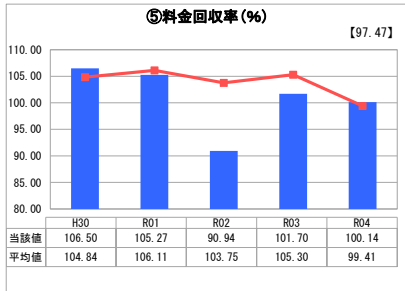
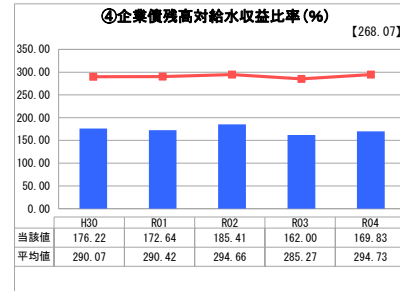
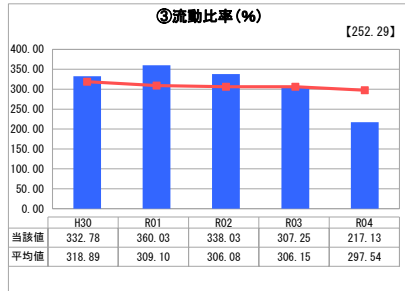
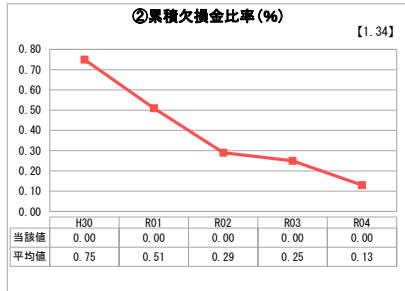
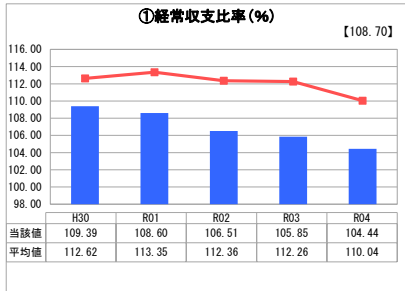
埼玉県 春日部市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	71.09	99.97	2,684	

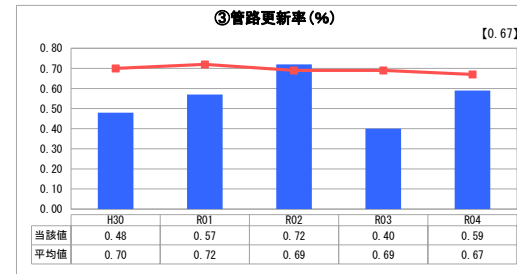
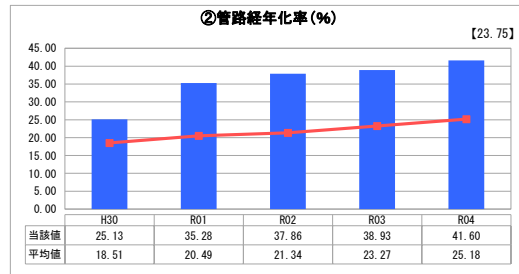
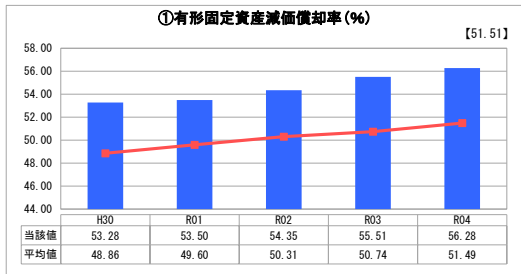
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
231,726	66.00	3,511.00
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
231,233	66.00	3,503.53

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、100%を上回っているが、下降してきており、今後増加する老朽化施設の更新財源の確保が課題である。  
 ②流動比率は、未払金の増加が主な要因で大きく減少したが、100%を上回っており、短期的な債務に対する支払能力に問題はない。  
 ③流動比率は、未払金の増加が主な要因で大きく減少したが、100%を上回っており、短期的な債務に対する支払能力に問題はない。  
 ④企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値を大きく下回っているが、将来世代の負担が過大とならないよう、企業債残高を適正に管理していく必要がある。  
 ⑤料金回収率は、100%程度まで下降してきており、一層の費用の抑制、収益の確保が課題である。  
 ⑥給水原価は、類似団体平均値を下回っているが、修繕費や委託費が増加したことなどから前年より上昇しており、今後も上昇傾向が見込まれる。  
 ⑦施設利用率は、下降傾向となっている。今後は人口減少や節水型社会への移行等による給水量の減少が見込まれることから、将来の水需要を考慮しながら効率的な施設運用に努める必要がある。  
 ⑧有収率は、類似団体平均値を上回っているが、引き続き漏水調査や老朽管の更新などの漏水対策を行い、有収率の向上に努める必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は50%を超え上昇しており、法定耐用年数に近い資産が多いことを示している。  
 ②管路経年化率は類似団体平均値を上回っており、法定耐用年数を超えた老朽管が多いことを示している。更に、今後は高度経済成長期に布設した多くの配水管が耐用年数を迎えることから、管路更新ペースの向上を図る必要がある。  
 ③管路更新率は工事発注時期標準化の取り組みの開始に伴い一時的に減少していた前年より上昇したものの、類似団体平均値を下回っている状況である。今後は管路更新率の向上に向け、計画的な管路更新を行っていく必要がある。

### 全体総括

新型コロナウイルス感染症の影響はほぼ見られなくなったが、今後も水需要の低下や施設の老朽化等、経営状況は厳しさを増していく見込みとなっている。  
 また、計画的な施設更新を行っていくため、概算発注方式や設計施工一括発注方式を活用するなどの工夫を行っているものの、人件費や物価上昇などによる工事請負費等の増加が経営を圧迫している。今後は、料金改定を含めた財源確保策の検討、一層の費用の抑制を図っていく必要がある。